

2015.10.25

こんにちはわ〜るど

No. 55

半田国際交流協会だより

7月26日七夕交流会を開催しました

在住外国人との交流イベント『七夕交流会』を、雁宿ホール視聴覚室にて開催しました。11カ国の外国人82名と、日本人92名の計174名の参加があり、短冊で飾られた笹を囲んで、夏の縁日を皆で楽しみました。浴衣レンタルは大人気で、着付けボランティアの方々は忙しでした。今年は、日本語教室の生徒たちが、スタッフとして水風船や輪投げ、昔の遊びコーナーなどで活躍しました。



▲願いが叶いますように...



▲「たなばたさま」合唱♪



▲ベトナムの生徒さん
浴衣姿がいいね☆



▲ひもひきコーナー
何が当たるかな?



短冊に願いを込めて...

ケーキ屋さんになりますように お金がたくさんたまいますように

彼女が見つかりますように 家族健康 国際交流を通して友達がたくさんできますように

I wish that I can make many new fridneds in Japan and stay in touch with them once I leave

お母さんお父さんはいつも元気おねがいします 世界平和

元気で健康な赤ちゃんが産まれますように 九千まん円の宝くじを当たります

試験蒙的全対(試験で、あてずっぽうの答えがあたっていますように) 来年も来られますように



▲みんなで盆踊り♪



▲「えいっ」
輪投げコーナー



▲「大蔵餅」さん提供の
おはぎ



▲けん玉に挑戦



▲お箏と二胡の演奏

半田国際交流協会にご入会ください!

会員募集

年会費 個人会員 2,000円

団体会員 10,000円

法人会員(1口 5,000円)

・従業員数 1名~29名 1口以上

・従業員数 30名~49名 2口以上

・従業員数 50名~ 4口以上

申込先: 半田国際交流協会(雁宿ホール内1階)

TEL: 0569-26-1929 FAX: 0569-26-1992

E-mail: hia@poplar.ocn.ne.jp

HP: <http://www.handakokusai.aichi.jp>



■11月29日(日)

こんにちはわ〜るどフェスティバル
~世界の人たちと遊ぼう!~



時間 10:00~15:00 場所 半田赤レンガ建物

楽しいステージや催しがたくさん!
みんな遊びに来てね!

Midland から高校生来半！

姉妹都市のアメリカ ミッドランド市とは、1981年6月の姉妹都市提携の翌年から、隔年で相互に交換生を派遣し合っています。今年は受入れの年で、7月22日から8月10日の3週間、3名の高校生がそれぞれ3家庭をホームステイし、日本の文化・習慣を学びました。



ブリアンナさん(左)、マシュー君(中)、アマリーさん(右)



▲歓迎会。「ようこそ、半田市へ！」

7/22

セントレア
到着



◀ホストファミリーの皆さんがウェルカムボードを持って出迎え

7/24



▲市長表敬訪問

7/26



▲マシュー君とブリアンナさんは、半田国際交流協会 日本語教室主催の七夕交流会に参加しました。

7/29

ホストファミリー交代



▲地元の高校生と交流会。英語での自己紹介やゲームをして仲良くなった後、トヨタ工場の見学に行きました。

7/30

7/31



▲博物館・新美南吉記念館の見学と、富士重工業の工場見学を行いました。



◀松石会長主催のBBQパーティを楽しみました。

8/4

ホストファミリー交代



8/5



▲京都見学。金閣寺、清水寺、伏見稲荷に行きました。金閣寺では、地元の中学生からインタビューを受けました。

8/9

8/10

セントレア
出発



▲送別会。ブリアンナさんとアマリーさんの歌や、マシュー君のトロンボーン演奏、そして最後はみんな連なってダンス！盛り上がりました。



▲見送りの日。「また会おうね！」

Brianna Tegen

ブリアンナ・ティーガンさんは、アニメが好きな15歳。
歌やギター演奏が上手で、歓迎会では、リナ・パークの
「祈り」を美しい声で歌ってくれました。



日本の印象は？

長い歴史がありながら、近代化が進んだとても落ち着きのある敬意を持てる場所です。その長い歴史は、旅行者に魅力ある京都のような街、落語などの伝統的娯楽の公演、七夕のような夏に行われるお祭りを通して、非常によく継承されています。

日本でもっともよかった経験は？

京都に行って、一つの街で、伝統的建築物や信仰、着物に触れることができたことです。

食べられなかった日本食は？

特にありませんが、寿司や麺を箸で食べるのがむづかしかったです。

もう一度食べたい日本食は？

たこ焼き、そうめん、てんぷら、エビカレー。



ブリアンナ ホストファミリーの感想

上村ファミリー

ラグーナ蒲郡に花火と3Dマッピングを見に行きました。夜を待つ間、遊園地でジェットコースターや観覧車に乗りました。とても喜んでくれていたので、良かったです。

家では、練りあめや綿菓子を作って楽しみました。

娘にとっての1番の思い出は、2人っきりで電車とバスを乗り継いでナガシマのプールに行ったことらしいです。2人でいっぱいいろんなことを話せたようです。初めてのホストファミリー体験でしたが、とても楽しい思い出になりました。



沓名ファミリー

富士山を見たいとのリクエストで、富士川SAまでドライブに行きましたが、夏はガスの発生等により見えにくく見ることができませんでした。そこで「ここに富士山があるはずなんだよ～」と何も見えない景色の所で、指をさしながら写真を撮ってきたのが一番の思い出となりました。「富士山も見ることができなかったの、また家族を連れて日本に来なきゃ」と言っていました。



榊原ファミリー

今回のホストで1番思い出に残っているのは、家族で伊勢神宮に行ったことです。外宮→内宮とお参りをし、そのあとお昼ご飯に伊勢うどんとデザートに赤福を食べました。ブリアンナは本当に明るくノリがよくて、行き帰りの車の中ではクイズをしたりして最高の思い出をつくることができました！！

そして1番印象深いのは、ネイルをしてもらったことです。すごく手先が器用で、つまようじをつかってハートや星など、とても難しい絵を次々に描いていくところを見て、「すごい！」と思いました。娘たちも、ブリアンナにネイルをしてもらったのが嬉しかったらしく、ブリアンナがいた1週間、ずっと手を汚さないよう慎重に過ごしていました。



AnnMarie Moolenaar

アマリー・ムーレナーさんは、様々なクラブやボランティア活動がんばっている16歳。笑顔を決やさない明るい女の子でした。



日本の印象は？

日本で会ったすべての人が素敵で、親切で、謙虚でした。とても尊敬できます。東京は非常に大きく、アニメが人気ということ以外、日本についてあまり知りませんでした。日本食もあまり食べたことがありませんでした。今は、日本が、特に山や建物が、非常に美しいところであることがわかりました。食べ物はおいしく、文化もとてもレベルが高いです。また、日本が、非常に人をもてなそうとする人たちであることは知っていましたが、今回の旅行でそれが本当によくわかりました。

食べられなかった日本食は？

ご飯にのせて食べるベトベトした豆のようなものと牛タンですが、楽しんで試せましたよ。

もう一度食べたい日本食は？

まず先に試していないものから食べたいです。しゃぶしゃぶ、すき焼き、かき氷、うなぎ、たこ焼き、イカや魚、餃子、ヌードル以外。



アマリー ホストファミリーの感想

福田ファミリー

何気ない会話から、日本では“あたり前”と思っていたことがミッドランドでは“あたり前ではなく不思議な感じ”ということがたくさんあると分かったこと。例えば、日本では駐車する際に出やすい様、後ろから入れますが、ミッドランドでは頭入れをすとか、日本とアメリカのホテルの朝食メニューが品数も量も全く違うことや、チョコレートやスナック、駄菓子、ケーキは見た目も味もおもしろいと感じるとか…つたない英語でもお互い言い換えをしあいながら、コミュニケーションがとれたことが一番の思い出です。



日比野ファミリー

岡崎花火大会が一番心に残っています。早く家を出て、いい場所をとったつもりが、いざ花火が始まると木でさえぎられて全く見えず、急きょ場所を変えて何とか見る事ができました。とても焦りましたが、きれいな花火を見ることができ、「今までの花火で一番きれい」と言ってくれて私たちも楽しめ、アマリーを連れて行ってよかったと思いました。



蜷川ファミリー

アマリーは本当に素敵な女性でした。とても人懐っこく常にニコニコ笑顔で、自分や家族のこと、ミッドランドのことをやさしい単語を選んでゆっくりと話してくれました。また、日本のあらゆるもの(歴史や文化、食べ物、日常生活など)に興味をもち、なんでも「Try!」、そして「Good!」と言ってくれました。「もっと流暢に英語を話せたら」と何度思ったことか。いっぱい教えてあげたいこともあるし、聞きたいこともあるけれど、それを上手に伝えられない、伝わらないもどかしさを何度も感じました。スマホの翻訳アプリが手放せない日々でしたが、その誤訳のおかしさにお互いに大笑いしたこともしばしば。不思議なことに、小学生と保育園の娘たちは、一緒にお風呂にはいたり、毎晩カードゲームで遊んだり、言葉の壁をこえたコミュニケーションを上手にっていました。



Matthew Bone

マシュー・ボーン君は、歌が好きな17歳。
サッカー部、卓球部と交響楽団に入っていて、
送別会ではトロンボーンを演奏してくれました。



日本の印象は？

大きなカルチャーショックを受ける心の準備をしていましたし、文化の違いによって皆さんの気分を害してしまうのではないかと不安でしたが、日本の皆さんがとても理解してくれているのがわかりました。日本の人たちはみんなシャイだと聞かされていましたが、実際、シャイな人もそうでない人もいて、人によるんだと思いました。

日本でもっともよかった経験は？

私の楽しんだイベントはBBQです。すべてのホストファミリーと夜を過ごせて、スタッフの人ともたくさん話すことができました。日本式のBBQは、みんなが自分で焼くことができるので楽しいです。

食べられなかった日本食は？

日本で食べたほぼすべての食事が気に入りました。でも、嫌いなものもありました。一つはエスカルゴ(自分が注文したので、無理に食べました。)で、もう一つは生のイカです。ちょっとヌメヌメしすぎます。

もう一度食べたい日本食は？

寿司、ラーメン、たこ焼き、しゃぶしゃぶ、蒸した牛肉、初日に食べた白色のグミ、うどん、トッポ、星の形をした抹茶スイーツ、小豆の入ったものなら何でも、餅、その他。

マシュー ホストファミリーの感想

川岸ファミリー

おもしろかったエピソードとしては、家電量販店で時間をつぶしていた時、マッサージチェアに座りたいと言ったので、電源をONにしてあげました。とても気持ちよさそうにしていたので、私は他の物を見に行き、しばらくしてチラッとこのぞいたらまだ座っていたので、そのままにしておきました。またしばらくして戻ってきても、まだ座っていたので、「気持ちいいんだね、気に入ったんだね」なんて声をかけたら、「止め方がわからないから…」との返事が返ってきて、ついつい大爆笑！！表示をみたら、確かに日本語で書いてある。けれど、適当にスイッチでも押せば止まるのにそれもせずに、ずっと座っていたところがかっこよかったですね。放置した私もいけません。



尾前ファミリー

マシュー君に家で料理をするのかとたずねたところ、お菓子作りをすると言うので、是非作ってほしいとお願いしたところ、材料をアメリカにいる父親にメールで確認し、「バター餅」という、上新粉を用いたケーキを作ってくれました。材料をスーパーと一緒に買いに行った時、ココナッツミルク(缶)が見当たらず、ナタデココ(缶)でも多分大丈夫だということで、買って帰って、ナタデココの缶を空けたのですが、想像と違って「ん??？」という表情になり、結局、違うスーパーにココナッツミルクを買いに行きました。砂糖を多量に使用したのでとても甘いケーキでしたが、ココナッツの香りもして、美味しいケーキでした。

間瀬ファミリー

マシューは日本で富士登山を考えていました。なおかつ、サンライズ(御来光)を見たいようでした。御来光に何か特別な想いがあるように感じました。日程が難しいので、滋賀県の伊吹山登山を決行しました。当日の気象状況から御来光はハーフアンドハーフです。午前2時に起きて、4時に9合目に到着。そして、頂上まで約30分の道のりです。休けいすることなく登り続けました。4時半に山頂に到着し、約100人の登山客と静かに御来光を待ちます。5時5分、東の空に小さな赤い光が現れ、歓声がわき上がり、その後約10分間の日の出を見ることに成功しました。その間マシューは、私たちの少し前で、微動だにせず一点を見つめていました。私たちも自然の美しさに感動しましたが、彼はさらにもう1つ目的を達成したのではないかと思います。きっと御来光を見ながら「将来への誓い」をたてていたことでしょう。




 HANDA - PORT MACQUARIE
 


姉妹都市提携25周年を記念して 市民訪問団 オーストラリア ポートマッコーリーへ

当協会副会長2名を含む13名の市民訪問団が、8月17日～23日ポートマッコーリーを訪れました。

25年の 絆

市民訪問団団長 榊原 肇
(半田国際交流協会副会長)

ポートマッコーリーを最初に訪れたのは26年前になります。半田青年会議所が知多半島の青少年を対象に80人のホームステイ事業を行ったとき、スタッフとして出かけました。前代未聞の大事業だったので、連れて行く方も受け入れをしてくださる方も大変だったことを思い出します。その後、両市の機運が高まり姉妹都市提携が結ばれ、それ以降交流が続いてきました。

26年前に交わされた友情の絆は25周年を迎えた今でも変わりありませんでした。お互いに歳はとったものの、再会の喜びは何ものにも代えがたいものでした。市民訪問団として参加された方々もそれぞれの使命を全うし、30周年に向けての新たな一歩が踏み出せる素晴らしい出会いとなりました。



▲キャセグレインワイナリーにて



記憶に残ったベスト5

半田国際交流協会副会長 中村 宗雄

- ★第5位 「飛行機の遅れにより乗り継ぎが出来ず、帰国に27時間もかかったこと(シドニー→香港→バンコク→セントレア)」
※驚きというより、本当に疲れました…。(実際のところ帰国は24日になりました。)
- ★第4位 「ポートマッコーリーの方たちは、文化交流もさることながら、経済交流を真剣に考えていたこと」
※ポートマッコーリー商工会議所主催のパーティーもあり、半田商工会議所の方も参加していたので、とても喜ばれました。
- ★第3位 「滞在中にお世話を頂いた、現地ボランティアの方たちの気持ちの良さ」
※次回半田に来られた時には、この恩返しは必ずしたいですね。
- ★第2位 「25年前の写真や名刺(特にJCの方たちの)がきちんと整理しており、しっかり覚えていてくれたこと」
※「彼は今も元気？」の問いに、「既にお亡くなりになった」と答えると、とても悲しい表情をしていたことが印象的でした。
- ★第1位 「グラスハウスで行われた市主催の歓迎会において、過去25年間に半田市が贈った様々な記念品のすべてが展示してあったこと」
※「おもてなしの心」という部分では、日本人以上ですね。

フータン王国から青少年来半！

2005年「愛・地球博」において、半田市のフレンドシップ相手国であったブータン王国とは、2008年に発足した半田ブータン青少年交流協会が中心となり、交流を続けています。今年は、半田ロータリークラブとの共催で、7月12日から23日まで、学生4人と引率の先生1人を受け入れました。ホームステイ先から青山中学校に通い、日本の生活や文化を学びました。

